

1. 略歴

- 1982年3月 東京大学文学部第三類フランス語フランス文学専修課程卒業
1984年4月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程入学（仏語仏文学）
1987年4月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程進学
1988年10月 パリ第12大学博士課程（～1991年9月）（フランス文学、フランス政府給費留学生）
1992年3月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程退学
1992年4月 東京大学文学部助手
1994年4月 白百合女子大学文学部専任講師（フランス文学）
1997年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教（フランス語フランス文学）
2010年4月 東京大学大学院人文社会系研究科教授（フランス語フランス文学）

2. 主な研究活動

a 専門分野

フランス近代文学。

b 研究課題

- (1) ポール・ヴァレリー研究。「夢」というトポス、断章という形式からの検討。
- (2) クレオール文学研究。エキゾティシズムとは無縁の、活力にあふれたその作品美学の研究を、セゼール、グリッサン、シャモワゾー、コンフィアンなどの作品読解を通して進めている。
- (3) 20世紀フランス文学における散文の研究。小説全盛の19世紀とは異なり、20世紀には、詩的強度を備えたさまざまな散文作品が書かれるようになった。とりわけ、時間意識、夢と覚醒というテーマ、さらにイメージの活用法という視点から、その特質の一端を捉えようと試みている。

c 概要と自己評価

- (1)については、長年の課題として研究を続けている。ヴァレリーにおける詩学に焦点を当てて研究集会を共同主催、その成果を『ヴァレリーにおける詩と芸術』（水声社）として出版する予定である。ヴァレリーと日本文学との関わりについても、石川淳をめぐって行った研究をさらに展開する準備を進めている。
- (2)については、グリッサンの大著『カリブ海のディスクール』を共訳で翻訳し、現在校正中である。また、クレオール文学を日本語で訳そうとする時に生じる問題について、研究集会で発表した。
- (3)については、20世紀フランス文学について、「夢」というテーマをめぐって、ヴァレリー、プルースト、ブルトン、サルトル、バルトを比較検討する論文を執筆、現在一本の原稿としてまとめようとしている。また、ウィリアム・マルクス『文学との訣別』の翻訳が現在印刷中。この批評家は、18世紀から20世紀にかけて、文学が社会において途方もなく高い地位を獲得した後、価値下落の憂き目に遭った状況を分析している。

d 主要業績

(1) 論文

- 塚本昌則、「放心の幾何学——20世紀フランス文学における眠りと夢（1）——」、『思想』、2016年8月号（n.1108）、p.78-96
塚本昌則、「放心の幾何学——20世紀フランス文学における眠りと夢（2）——」、『思想』、2016年12月号（n.1112）、p.110-132
Masanori Tsukamoto, « La photographie dans l'œuvre critique de Valéry », *Textimage*, n° 8 : Poésie et image à la croisée des supports, Hiver 2017, http://revue-textimage.com/13_poesie_image/tsukamoto1.html
塚本昌則、「放心の幾何学——20世紀フランス文学における眠りと夢（3）——」、『思想』、2017年3月号（n.1115）、p.93-114
塚本昌則、「放心の幾何学——20世紀フランス文学における眠りと夢（4）——」、『思想』、2017年9月号（n.1121）、p.83-105
Masanori Tsukamoto, « Valéry et Proust : Deux poétiques du rêve », *Valéry et les sciences*, Fata Morgana / Musée Paul Valéry, 2017, p.51-74
塚本昌則、「ロラン・バルトにおける眠りと覚醒——〈中性〉をめぐって——」、『日本フランス語フランス文学会 関東支部論集』、第26号(2017.12)、p.61-76

Masanori Tsukamoto, « Dessin et rêve chez Valéry — autour de Degas Danse Dessin », Degas Danse Dessin : Hommage à Degas avec Paul Valéry, Musée d'Orsay / Gallimard, 2017, p.58-65

塚本昌則、「放心の幾何学——20 世紀フランス文学における眠りと夢 (5)——」、『思想』、2018 年 6 月号 (n.1130)、p.116-137

(2) 書評

塚本昌則、イレーネ・ネミロフスキー『血の熱』、『週刊読書人』、2016.7.15

塚本昌則、「2016 年回顧・外国文学 (フランス)」、『週刊読書人』、2016.12.23

塚本昌則、「2017 年回顧・外国文学 (フランス)」、『週刊読書人』、2017.12.22

塚本昌則、タハール・ベン・ジェルーン『嘘つきジュネ』、『週刊読書人』、2018.3.23

(3) 学会発表

国外、Masanori Tsukamoto, « Valéry et Proust – deux poétiques du rêve », Musée Paul Valéry (Montpellier, France)での国際研究集会 « Paul Valéry et les sciences » (2016.9.23-25)での発表、2016.9.25

国内、塚本昌則、「ローデンバックの写真小説」、日白修好 150 周年記念シンポジウム実行委員会主催『文化・知の多層性と越境性へのまなざし——学際的交流と「ベルギー学」の構築をめざして』(2016.12.10-11)での発表、東京理科大学神楽坂キャンパス富士見校舎、2016.12.10

国内、塚本昌則、「ロラン・バルトにおける眠りと覚醒——〈中性的なもの〉をめぐる」、日本フランス語フランス文学会関東支部 2016 年度大会シンポジウム「20 世紀フランス文学における夢」での発表、東京外語大学、2017.3.4

国外、Masanori Tsukamoto, « Breton au Japon – une passivité créatrice », Bibliothèque Nationale de France (Paris)での国際研究集会 « Breton après Breton (1966-2016) – Philosophies du surréalisme » (2017.4.26-27)での発表、Auditorium de la galerie Colbert、2017.4.26

国内、塚本昌則、「シミュレーションの詩学——ヴァレリーにおける身体の変容」、2017 年度秋季日仏シンポジウム芸術照応の魅惑 3 「ヴァレリーにおける詩と芸術」(2017.10.21-22)での発表、日仏会館、2017.10.21

国内、塚本昌則、「クレオール文学をどう訳すか」、早稲田大学・現代フランス研究所、日仏会館フランス事務所主催の国際研究集会「世界文学から見たフランス語圏カリブ海——ネグリチュードから群島の思考へ——」(2018.3.25-26)での発表、日仏会館、2018.3.26

(4) 翻訳

共訳、André Gide / Pierre Loÿs / Paul Valéry, “Correspondance à trois voix : 1888-1920”、松田浩則・山田広昭・塚本昌則・森本淳生訳、アンドレ・ジイド／ピエール・ルイス／ポール・ヴァレリー『三声書簡 1888-1890』、水声社、2016.5、695p.

3. 主な社会活動

(1) 学会

日本フランス語フランス文学会員